

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.39 価値観と優先 順位

「所詮、他人に流されてはいかんと
いうことか」座禅のさなか山部が、
ぽつんと呟いた。

「そうや。如何にして自分をしっ
かり持つか。与えられた人生を自分
らしく突き進むかということや。太
く短くもよし。細く長くもよし。お
のれの価値観をどこに置くかが一番
大切なんや。」傍で座禅を組んでい
た御手洗透が山部に語りかけるでは
なく、己に向かうでもなく呼応した。

「自分がタバコを吸うきっかけと
なった教授を諸悪の根源と考えてい
た。血圧が高いのを仕事の所為と、
ある意味己の事として考えなかった。
否、逃げ道を探していたのだ。クリ
ニックに通う時間がないと自分に言
い聞かせていた。時間なんて作れば
いくらでもできるのに。」

「そうや、時間はいくらでも作れ
る。問題は優先順位や。何を一番大
切にするべきか。目先のことではな

く、決められた人生の中で何を優先
すべきか。そのためにはどう振る舞
うべきか。死ぬのは怖い。手足の自
由を奪われるのも怖い。思考できな
くなるのも怖い。言葉を失うのも怖
い。怖いことを避けて通るにはどう
したらいいかというこっちゃ。」氣
が付けば御手洗透が目を大きく見開
き気を発していた。

「ですよ。」御手洗透の氣を受け
山部聡も内に氣をため込んでいる。

「他愛もない毎日。妻・友子と愛娘・
佳奈との平凡な時間。これを私は守
りたい。ならば必然的に塩分感受性
の高い身体を授かった私は否が応に
も塩分を減らすべきだった。これく
らいはいいかとか、次からとかでは
なく、塩分を減らす具体的な方法を
探すべきだった。」

「山部さん、まだ遅くはありません。
今までどうだったかではなく、
これからどうするべきかなのです。
あなたは手足の自由を失った訳でも
なく、言葉を失った訳でもないのだ
す。これからの行いで高次機能障害
を乗り越えることもできるし、何よ
り快適な明日が待っているのです。」
座禅を組む山部の傍には和尚がやさ
しく微笑みながら立っていた。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院 長 中 村 陽 一